

◎ 部門別損益計算へのイタズラ

1. 企業会計原則では

X期部門別損益計算書 (単位:千円)

項目		本社工場	分工場
売上高		10,000 (1,000台 @10)	10,000 (1,000台 @10)
製造原価	変動費	5,000 (1,000台 @5)	5,000 (1,000台 @5)
	固定費	2,000	2,000
	計	7,000	7,000
売上総利益		3,000	3,000
本社費配賦		2,000	2,000
利益		1,000	1,000
1台当たり原価		変動費 固定費 5 + 4,000/1,000(台) =9	変動費 固定費 5 + 4,000/1,000(台) =9

Y期部門別損益計算書 (単位:千円)

項目		本社工場	分工場
売上高		15,000 (1,500台 @10)	10,000 (1,000台 @10)
製造原価	変動費	7,500 (1,500台 @5)	5,000 (1,000台 @5)
	固定費	2,500	2,000
	計	10,000	7,000
売上総利益		5,000	3,000
本社費配賦		2,400	1,600
利益		2,600	1,400
1台当たり原価		変動費 固定費 5 + 4,900/1,500(台) =8.3	変動費 固定費 5 + 3,600/1,000(台) =8.6

2. 経営判断に役立てるには

経営の目的は全体での成果にあるから、単位当たりの効率を針小棒大に取り上げる必要はない。
 シンプルな判断をする際の考え方として、「どちらを取るかで違う部分のみを比較する」ことが、正しい。
 従って、部門別の成果を把握する場合には、本社費配賦の単位当たり原価を取りざたするのは、明らかな間違いである。

部門別損益を検討するには、下記のように考えればよい。

X期部門別損益計算書

	本社工場	分工場	計
売上総利益	3,000	3,000	6,000
本社費			4,000
利益			2,000

Y期部門別損益計算書

	本社工場	分工場	計
売上総利益	5,000	3,000	8,000
本社費			4,000
利益			4,000